

# 事業概要シート

施策	0102	親と子の健康増進	《》の金額	現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く
事業名	乳幼児育成指導事業	その他の見直し	予算額	996 千円 《 1,240 》千円
事業期間	平成9年度 ~		財 源 内 訳	国庫支出金 千円
根拠法令 要綱等	母子保健法 第2次健康おおむら21計画			県支出金 千円
				地方債 千円
				その他 千円
			一般財源 996 千円	

**【事業の目的・概要・対象】**

**【親子愛あい広場】**

こどもセンターにおいて週1回（6回シフト年間5クール）開催し、感覚遊び等のプログラムを通して、専門スタッフが子育てに関することや子どもの発達等についてアドバイスを行う。また、支援が必要と認められた児及び保護者に対し、クール終了後に相談会（年間10回）を実施する。

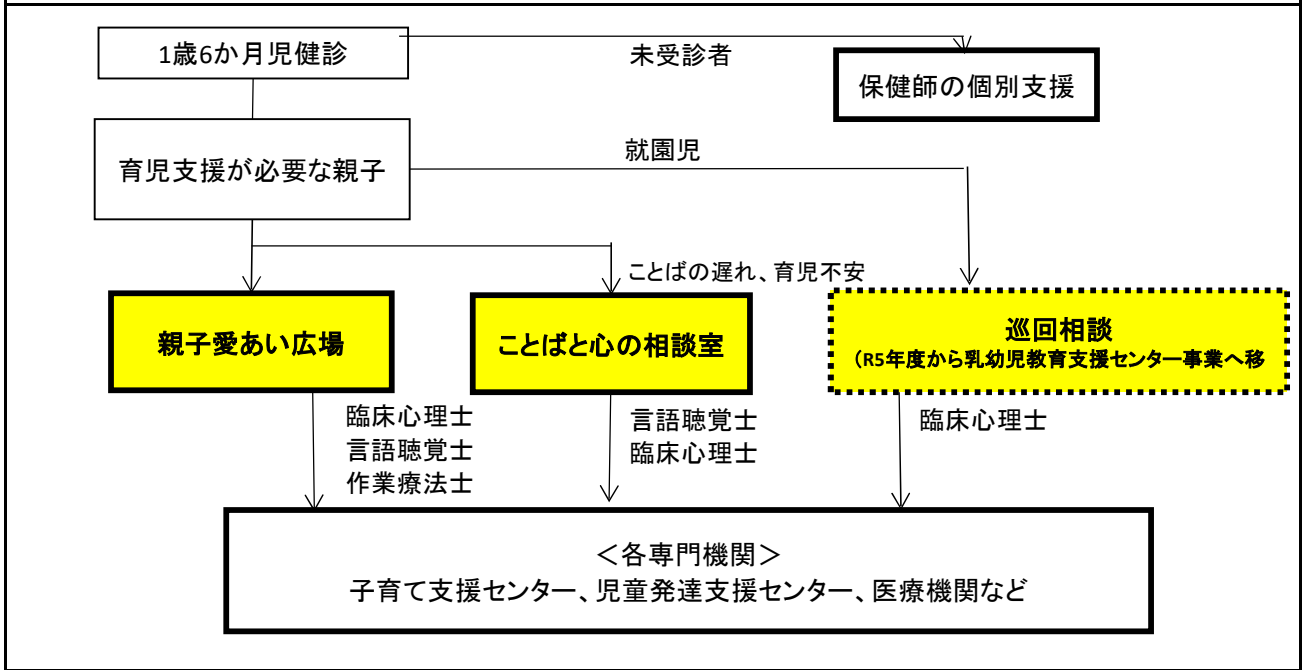
**【ことばと心の相談室】**

こどもセンターにおいて、ことばの相談（偶数月2回・奇数月3回）、心の相談（毎月1回）を開催し、言語聴覚士や臨床心理士による個別相談で行う。

**【巡回相談】**

乳幼児健診後、支援が必要と判断された児が通園している保育園や幼稚園に臨床心理士等の専門スタッフが outgoing、適切な支援に関する指導・助言を行うとともに、各専門機関へ斡旋を行う。

（巡回相談に関する事業は、令和5年度から放虎原こども園内に設置される（仮）乳幼児教育支援センターが窓口を担うことから、その事業費は乳幼児教育支援センター事業に移すが、育児支援が必要な親子の支援は継続して実施する。）



**【背景】**

近年、ことばの遅れや運動発達に気になる子どもが増えてきている。子どもの発達に悩みを抱える親同士の交流や専門スタッフによる指導・助言等により育児不安の解消を図るとともに、子どもの健全な発達育成のために各専門機関につなげる必要がある。

担当課	こども未来部こども家庭課	課長	久保 昭隆
担当者	下田 依子	問合せ先	0957-54-9100

## 事業概要シート

### 【活動指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	親子愛あい広場の開催回数	回	40	30	30	30	30
②	ことばと心の相談室の開催回数（日数）	回	45	40	40	40	40

### 【成果指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	親子愛あい広場の参加組数（延べ）	組	219	196	196	196	196
②	ことばと心の相談室の相談件数（延べ）	件	134	129	129	129	129

### 【予算・決算】（千円）

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	合計
事業費		1,091	1,240	996	996	996	5,319
国庫支出金		0	0	0	0	0	0
県支出金		0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0
一般財源		1,091	1,240	996	996	996	5,319
人件費	0	4,258	4,278	4,278	4,278	4,278	21,369
職員(人)		0.58人	0.58人	0.58人	0.58人	0.58人	2.90人
時間外勤務(h)		20h	30h	30h	30h	30h	140h
会計年度任用職員(人)		0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
フルコスト	0	5,349	5,518	5,274	5,274	5,274	26,688

妥当性 (市の関与)	1歳6か月児や3歳児健康診査等において、支援が必要と思われる子どもに対し、母子保健事業への参加を促している。専門スタッフと連携を図り、子どもの健全な発育を支援することが必要である。
有効性 (施策貢献度)	発達障害のある子どもは、早期から発達段階に応じた支援を行うことが重要であり、集団活動や個別相談など、個々の状況に応じた適切な対応が必要である。
効率性 (コスト)	各種事業には、それぞれ必要な専門職を効率的に配置し、指導・助言等を行っている。

1次評価	担当者の記載のとおり
2次評価	1次評価のとおり